



中央操作室



清掃だより
No.57

福生市市民部
清掃課
平成9年3月15日

■問合せ
51-1511 (内線332)

4月1日より

新リサイクル センターが 稼働します!

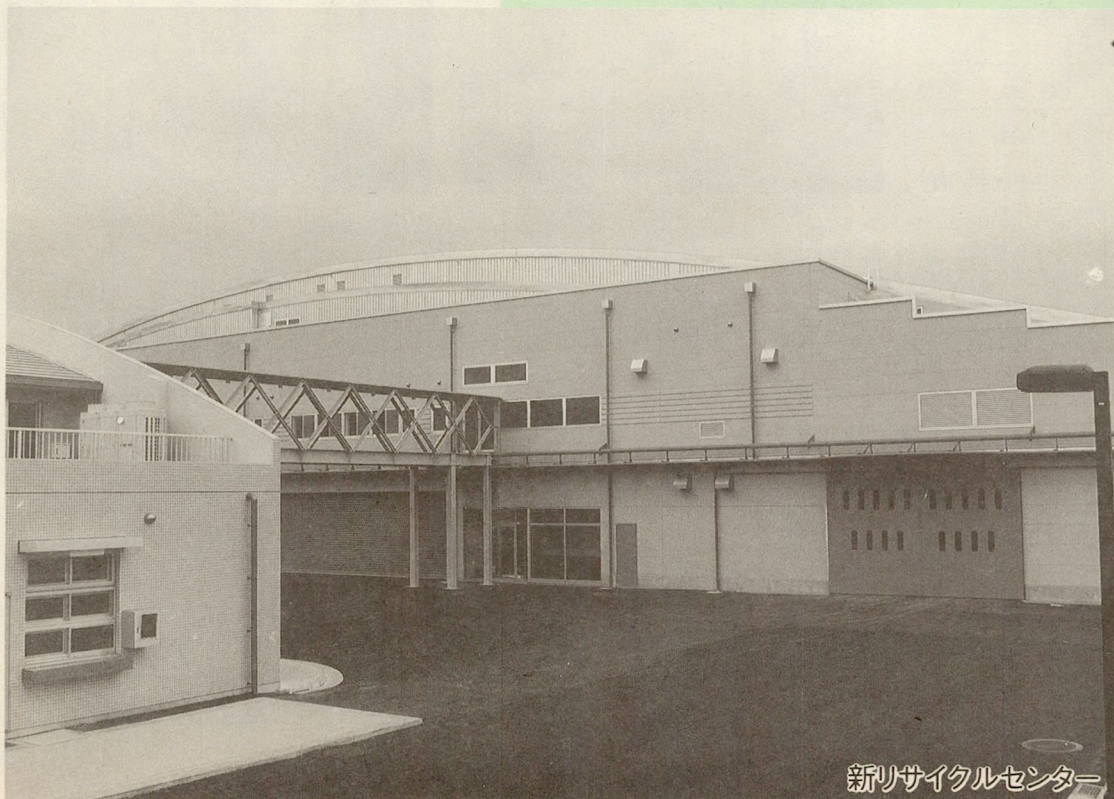
新リサイクルセンター（福生市熊川1,566-4）は、年々増加するごみの量、変化するごみの質に対応するために、平成7年6月に着工しました。工場棟、管理棟、リサイクルプラザ棟、回収資源物貯留棟から成り、延べ床面積は4,428㎡です。見学者通路や学習室もあり、多くの皆さんに見ていただける施設となっています。

また、燃やせない物、燃やせる物、鉄、アルミ、袋類およびペットボトルを機械で選別することができるので、処理能力（33t/5時間）が向上しました。そして、ペットボトル・発泡スチロールを圧縮する減容機や、細破砕機が設置されていますので、ごみの中から可能な限り資源を回収・再利用するシステムが整っています。これらのことから、ごみの再資源化とそれに伴う最終処分場（日の出町谷戸沢広域処分場）へのごみの搬入の

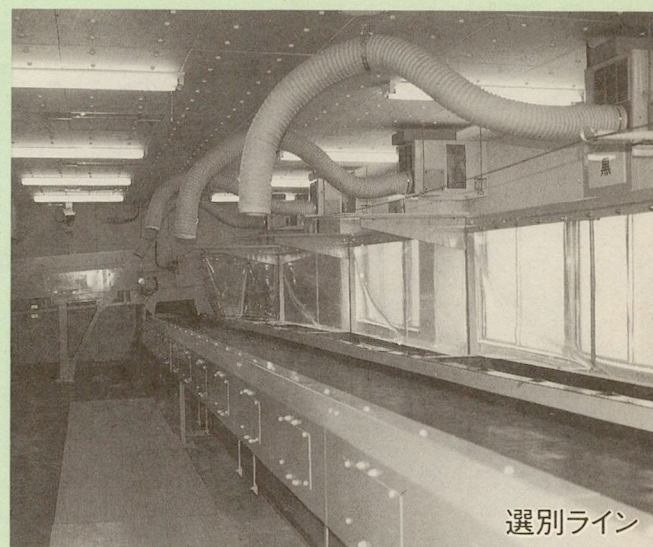
減量が期待できます。

新リサイクルセンターの建設には、約15億円もの費用がかかっています。この施設を大切にかつ有効に活用するためにも、市民の皆さんには、ごみの出し方を守っていただくことはもちろんのこと、より一層のごみ減量をお願いし、末長く愛される施設となるようご協力をお願いいたします。

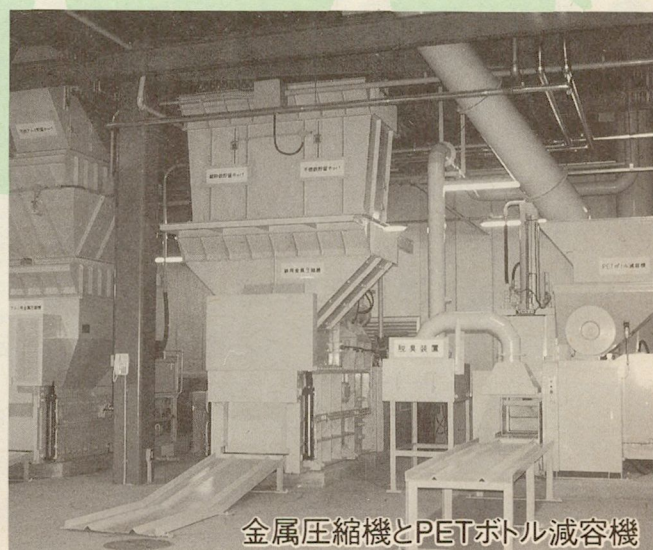
※再生品を取り扱うリサイクルプラザ棟は、平成10年4月に開館の予定になっています。



新リサイクルセンター



選別ライン



金属圧縮機とPETボトル減容機

福生市のごみ減量・リサイクル事業

福生市ではごみ減量・リサイクルの推進のために、つぎのような事業を行っています。

◆「資源の日」の実施

市では、ごみ減量と資源の有効な再利用を図るため「資源の日」を実施しています。新聞・雑誌・ダンボール・古布・ビン・缶などはきちんと分別し、ごみとは別に「資源の日」に出すようにしましょう。ひとりひとりのごみに対する心がけと思いやりで大きな成果が得られます。皆さんのご協力をお願いいたします。

	新聞	雑誌	ダンボール	古布	ビン	缶	合 計
平成6年度	453t	418t	237t	65t	826t	324t	2,323t
平成7年度	447t	448t	274t	71t	742t	356t	2,338t

(収集実績)



◆資源回収実施団体への支援



福生市には現在、集団回収をしている登録団体が86あり、家庭から出る紙類・古布・ビン・缶などの回収を行い、地域のリサイクル活動に大きく貢献しています。市ではこれらの団体へ1kgあたり10円（ビンは1本10円）の報償金を交付しています。また、空き缶圧縮機やハンドスピーカーなど用具の貸出も行い、資源回収団体を支援しています。

	古 紙	古布	鉄類	ビ ン	合 計
平成6年度	1,072t	49t	7t	78,103本(39t)	1,167t
平成7年度	1,103t	47t	12t	74,003本(37t)	1,199t

(集団回収実績)

◆牛乳パック・発泡スチロールトレイの回収

ごみの減量と資源の再利用を目的に、市内の小売店等の協力を得て、牛乳パック・発泡スチロールトレイを回収しています。回収された牛乳パック・発泡スチロールトレイはリサイクルルートにのり、有効に再利用されます。

	牛乳パック	発泡スチロール	・ 合 計
平成6年度	13.3t	5.6t	18.9t
平成7年度	14.6t	4.8t	19.4t

(拠点回収実績)



◆家庭用生ごみ堆肥化容器の無料貸出 家庭用ごみ焼却器・家庭用生ごみ処理機の購入費補助金の交付

家庭から出るごみのリサイクル、自家処理を多くの方に実践していただくために、市では、現在、家庭用生ゴミ堆肥化容器の無料貸出・家庭用ごみ焼却器の購入費補助金の制度があります。

これに加えて、平成8年9月より、近年発売されて注目されている家庭用生ごみ処理機を市内のお店で購入された方に補助金（購入費の2/3、3万円まで）を交付する制度もできました。ご家庭でのごみ減量にぜひご利用ください。

ご希望の方は清掃課へお問い合わせください。

	生ごみ堆肥化容器
平 成 7 年 度	87基
平成4年度からの累計	638基

(貸与実績)

	ごみ焼却器
平 成 7 年 度	35基
平成5年度からの累計	383基

(補助実績)

	ごみ処理機
平成8年9月からの累計	15台

(補助実績)

(累計の実績は平成9年2月25日現在)